



しに之を受ざりき イエスを十字架に釘ししかる誰か何を取んて圖を拵てうの衣服を分てり 朝の第九時  
 にイエスを十字架に釘するの罪標をコダヤ人の王と書つて二人の盜賊かれと共に一人の其右一人の其  
 左に十字架架に釘らる 此聖書に彼ら罪人と共に算られたりと云じに應り 往來の者イエスを誦り首を  
 見て之を信せん双どもに十字架架に釘られたる者共も彼を誦れり 第十二時より三時に至るまで偏く地の  
 上へ暗なりぬ 第三時にイエス大聲に叫びて云 父よ 此を許され 第三時にイエス大聲に呼り云 父よ 此を許され 第三時に  
 を遣たまふ手と云ふなり 傍らに立たる者のうち或人これを見て呼り云 父よ 此を許され 第三時に  
 往て海絨をとり醜を漬せ之を擧に東に彼に飲しめ口けるハ 候エリヤ來りて彼を救ふや否と云ふと云ふ  
 イエス大なる聲を發て氣絶の幔上より下まで裂て二と爲り イエスに對て立たる百夫の長かく呼  
 り氣絶しを見て曰けるハ 誠に此人ハ神の子也 ○ 或だ遂に望めたる婦ありし其中に在し者ハ マグダ  
 のマリヤおよび年少ヤコブとヨセの母なるマリヤ又サロメナリ 彼等ハ イエスのガリラヤに居たまひし  
 時これに従ひ事し者等あり亦この他にも彼と共にエルサレムに上りし多の婦ありき ○ 是日ハ 備節日  
 にて安息日の前の日かりし故 日暮るとき尊き議員なるアリマタヤのヨセフと云ふ者きたれり 此人ハ神  
 の國を慕ふ者あり 彼はヨサドウトト往てイエスの屍を求めたり ヒトトイエスの巴に死るを希み百人  
 の長を呼て彼に死てより時を経たるや否やと問 百夫の長より問て之を去り屍をヨセフヨセフ  
 糸布を買求め而してイエスを取下し之をその糸布にて巻み纏に懸たる墓におき石を墓の門に轉し置り

マ可一〇六章九節  
 マ可一〇六章十節  
 マ可一〇六章十一節  
 マ可一〇六章十二節  
 マ可一〇六章十三節  
 マ可一〇六章十四節  
 マ可一〇六章十五節  
 マ可一〇六章十六節  
 マ可一〇六章十七節  
 マ可一〇六章十八節  
 マ可一〇六章十九節  
 マ可一〇六章二十節  
 マ可一〇六章二十一節  
 マ可一〇六章二十二節  
 マ可一〇六章二十三節  
 マ可一〇六章二十四節  
 マ可一〇六章二十五節  
 マ可一〇六章二十六節  
 マ可一〇六章二十七節  
 マ可一〇六章二十八節  
 マ可一〇六章二十九節  
 マ可一〇六章三十節  
 マ可一〇六章三十一節  
 マ可一〇六章三十二節  
 マ可一〇六章三十三節  
 マ可一〇六章三十四節  
 マ可一〇六章三十五節  
 マ可一〇六章三十六節  
 マ可一〇六章三十七節  
 マ可一〇六章三十八節  
 マ可一〇六章三十九節  
 マ可一〇六章四十節  
 マ可一〇六章四十一節  
 マ可一〇六章四十二節  
 マ可一〇六章四十三節  
 マ可一〇六章四十四節  
 マ可一〇六章四十五節  
 マ可一〇六章四十六節  
 マ可一〇六章四十七節  
 マ可一〇六章四十八節  
 マ可一〇六章四十九節  
 マ可一〇六章五十節  
 マ可一〇六章五十一節  
 マ可一〇六章五十二節  
 マ可一〇六章五十三節  
 マ可一〇六章五十四節  
 マ可一〇六章五十五節  
 マ可一〇六章五十六節  
 マ可一〇六章五十七節  
 マ可一〇六章五十八節  
 マ可一〇六章五十九節  
 マ可一〇六章六十節  
 マ可一〇六章六十一節  
 マ可一〇六章六十二節  
 マ可一〇六章六十三節  
 マ可一〇六章六十四節  
 マ可一〇六章六十五節  
 マ可一〇六章六十六節  
 マ可一〇六章六十七節  
 マ可一〇六章六十八節  
 マ可一〇六章六十九節  
 マ可一〇六章七十節  
 マ可一〇六章七十一節  
 マ可一〇六章七十二節  
 マ可一〇六章七十三節  
 マ可一〇六章七十四節  
 マ可一〇六章七十五節  
 マ可一〇六章七十六節  
 マ可一〇六章七十七節  
 マ可一〇六章七十八節  
 マ可一〇六章七十九節  
 マ可一〇六章八十節  
 マ可一〇六章八十一節  
 マ可一〇六章八十二節  
 マ可一〇六章八十三節  
 マ可一〇六章八十四節  
 マ可一〇六章八十五節  
 マ可一〇六章八十六節  
 マ可一〇六章八十七節  
 マ可一〇六章八十八節  
 マ可一〇六章八十九節  
 マ可一〇六章九十節  
 マ可一〇六章九十一節  
 マ可一〇六章九十二節  
 マ可一〇六章九十三節  
 マ可一〇六章九十四節  
 マ可一〇六章九十五節  
 マ可一〇六章九十六節  
 マ可一〇六章九十七節  
 マ可一〇六章九十八節  
 マ可一〇六章九十九節  
 マ可一〇六章一百節

マグダラのマリヤ及ヨセの母なるマリヤ其屍を擧じ處を見たり  
 安息日過てマグダラのマリヤとヤコブの母なるマリヤ及サロメ香料を買どくのハ イエスに沐  
 んとて來れり 七日の首の日ほど早く日の出る時かれら墓に來り 互に曰けるハ 誰か我儕の爲に石を墓  
 の門より轉じ取もの有んか是の石はかたじけなく巨大なれば也 斯て彼等目を覺れば石の巴轉わるを見る  
 墓小入し白布をきたる少者の右の方お坐せるを見て駭き異り少者かれらに曰けるハ 駭き異む勿  
 れ爾曹ハ十字架に釘られしナザレのイエスを尋ね彼ら廻りて此に居ず 彼を擧し處を觀し且ゆきて其弟  
 子とペテロに告ぎ 彼ら爾曹に先づてガリラヤに往り爾曹かして彼を見んべし 即ち其なむちら言じが  
 如し 彼等いでも墓より奔れり且輕快かつ駭き亦一人に語ざりき 是は懼しき故なり ○ イエス七日  
 の首の日よわけて 先づ 雙子ハ マグダラのマリヤに現る 曩に イエス彼より七の惡鬼を逐出せり イエスと  
 共に在し者哭哀める時に此婦きたりて是等の事を告 彼等ハ イエスの活て此の婦に見え給ひしことを聞  
 じが信せざりき 此後かれらの中二人の者郷村へ往けるが路を行き イエス變たる貌にて彼等に現る  
 この二人の者ゆきて他の弟子等に告げれども亦これを信せざりき ○ 又その後の十一の弟子の食しを  
 時に現れて 彼等が信なきと其心の頑道を責め給へり 是はかれらハ イエスの變り給るのち其を見し者の言ど  
 うを信せざりし故なり イエス彼等に曰けるハ 偏く世界を廻て凡の人に福音を宣傳よ 信じてバテマ  
 ヲを愛する者ハ 執れ信せざる者ハ 罪に定らるゝ也 信する者に左の如き奇跡あるがふべし 我名に託て惡  
 鬼を逐出し 異邦の方言をいひ 或た蛇を擧へ 毒を飲ども 害なく 又手を病の者に接す ば即ち愈ん ○ 斯て  
 主人 彼等に語し ち天に擧られ 神の右に坐しぬ 弟子たち偏く福音を宣傳ふ 主も亦かれらに力を協せ 其

マ可一〇七章一節  
 マ可一〇七章二節  
 マ可一〇七章三節  
 マ可一〇七章四節  
 マ可一〇七章五節  
 マ可一〇七章六節  
 マ可一〇七章七節  
 マ可一〇七章八節  
 マ可一〇七章九節  
 マ可一〇七章十節  
 マ可一〇七章十一節  
 マ可一〇七章十二節  
 マ可一〇七章十三節  
 マ可一〇七章十四節  
 マ可一〇七章十五節  
 マ可一〇七章十六節  
 マ可一〇七章十七節  
 マ可一〇七章十八節  
 マ可一〇七章十九節  
 マ可一〇七章二十節  
 マ可一〇七章二十一節  
 マ可一〇七章二十二節  
 マ可一〇七章二十三節  
 マ可一〇七章二十四節  
 マ可一〇七章二十五節  
 マ可一〇七章二十六節  
 マ可一〇七章二十七節  
 マ可一〇七章二十八節  
 マ可一〇七章二十九節  
 マ可一〇七章三十節  
 マ可一〇七章三十一節  
 マ可一〇七章三十二節  
 マ可一〇七章三十三節  
 マ可一〇七章三十四節  
 マ可一〇七章三十五節  
 マ可一〇七章三十六節  
 マ可一〇七章三十七節  
 マ可一〇七章三十八節  
 マ可一〇七章三十九節  
 マ可一〇七章四十節  
 マ可一〇七章四十一節  
 マ可一〇七章四十二節  
 マ可一〇七章四十三節  
 マ可一〇七章四十四節  
 マ可一〇七章四十五節  
 マ可一〇七章四十六節  
 マ可一〇七章四十七節  
 マ可一〇七章四十八節  
 マ可一〇七章四十九節  
 マ可一〇七章五十節  
 マ可一〇七章五十一節  
 マ可一〇七章五十二節  
 マ可一〇七章五十三節  
 マ可一〇七章五十四節  
 マ可一〇七章五十五節  
 マ可一〇七章五十六節  
 マ可一〇七章五十七節  
 マ可一〇七章五十八節  
 マ可一〇七章五十九節  
 マ可一〇七章六十節  
 マ可一〇七章六十一節  
 マ可一〇七章六十二節  
 マ可一〇七章六十三節  
 マ可一〇七章六十四節  
 マ可一〇七章六十五節  
 マ可一〇七章六十六節  
 マ可一〇七章六十七節  
 マ可一〇七章六十八節  
 マ可一〇七章六十九節  
 マ可一〇七章七十節  
 マ可一〇七章七十一節  
 マ可一〇七章七十二節  
 マ可一〇七章七十三節  
 マ可一〇七章七十四節  
 マ可一〇七章七十五節  
 マ可一〇七章七十六節  
 マ可一〇七章七十七節  
 マ可一〇七章七十八節  
 マ可一〇七章七十九節  
 マ可一〇七章八十節  
 マ可一〇七章八十一節  
 マ可一〇七章八十二節  
 マ可一〇七章八十三節  
 マ可一〇七章八十四節  
 マ可一〇七章八十五節  
 マ可一〇七章八十六節  
 マ可一〇七章八十七節  
 マ可一〇七章八十八節  
 マ可一〇七章八十九節  
 マ可一〇七章九十節  
 マ可一〇七章九十一節  
 マ可一〇七章九十二節  
 マ可一〇七章九十三節  
 マ可一〇七章九十四節  
 マ可一〇七章九十五節  
 マ可一〇七章九十六節  
 マ可一〇七章九十七節  
 マ可一〇七章九十八節  
 マ可一〇七章九十九節  
 マ可一〇七章一百節





光より幽暗と死蔭に住る者を照し我憐の足を導きて平康なる路に至せんとて臨めり○**却て嬰**  
**兒ハ漸成長し精ます**強健にしてイサエルに懸るゝの日まで野に居り  
**當時天下の戶籍を查る**認命カオサルアサグストより出たりこの戶籍調査ハクレニオナリヤを  
 管理し時の初次に行之れたり也人みか戶籍に懸んとて各々の故邑に歸たりヨセフもガビデの家族  
 また血統なれば戸籍に懸んとて已に孕る其婚定の妻ヤリアと共にカリヤの邑ナサレより出てユダヤ  
 に上りガビデの邑ベツレヘムといふ所に至れり此に居て産期滿れば家子を生ろれを布お巻て槽に  
 臥せたり此り客舎に彼等の居處亦かりし故なり○**逆傍に羊を牧もの有ける**が野に居て夜間ろの群を  
 守たりしに主の榮光かれりを豫照ければ牧者おほひに懼たり天使之れに曰けるハ  
 懼ること勿れわれ萬民に關りたる大なる喜の音を爾曹に告べし<sup>十二</sup>爾曹の爲に  
 救主ラされ給へり是主たるキリストなり爾曹布にて裹し嬰兒の槽に臥たるを見ん是ろの徴あり  
 衆の天軍あらざれば天使と共に神を讚美て曰ける<sup>十三</sup>天上ところにハ榮光神にわれ地にハ平安人にハ恩澤  
 あれ天使等かれらを離て天に行ければ羊を牧もの互に曰けるハ率ベツレヘムにゆき主の示し給へる其  
 有し事を見んとて急ぎ至りマリアヨセフまた槽に臥たる嬰兒に尋遇り既に見て此子かつき天使の  
 語り事を傳播ければ聞者みな羊を牧者の語る事を奇みたりマリアハ凡て是等の言を心に記て思想し  
 羊を牧者ろの見聞せる所みな已に語り所の如なるにより神を崇かつ讚美て返れり○**子に割禮を行**  
 んべき八日の日いたりければ其の胎に寓する先に天の使者の稱し如く名をイホスと稱たり○**モ**  
 세의律法に循ひて擲の日滿ければ嬰兒を携て主に獻んが爲エルサレムに上れり是主の例に初に生るゝ

路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 一節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 三節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 四節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 五節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 六節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 七節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 八節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 九節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十一節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十二節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十三節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十四節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十五節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十六節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十七節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十八節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十九節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十一節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十二節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十三節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節

男子ハ主の聖者と稱べしと録されたるが如しまた主の律法に班鳩一雙あるひハ雛鶴二を獻ふべし  
 言るに循ひて祭を行ふ爲なり○**儲エルサレムに**マコト云る人あり斯人ハ義かつ敬ありてイサエ  
 ルの民の慰められたる事を候る者なり聖靈ろの上に臨りまた主のキリストを見ざる間ハ死と聖靈にて  
 示さる かれ聖靈に感じて神殿に入り兩親ろの子イホスを律法の例に循ひて行とて携來りしにマ  
 コト嬰兒を抱き神を讚美ひひける<sup>二</sup>主よ今ろの言に従ひて僕を安然ハ世をバ逝せ給ふ 我目すでに萬  
 民の前お設けたり救を見たりこれ異邦人を照さん光なりまた爾の民イサエルの樂ありろの父  
 母ハ嬰兒お就て語る事を奇をれり又マコト彼等を擲て其母マリアお曰けるハ此嬰兒ハイサエルの  
 多の人の頭て且興らん事と誦詠を受ん其號ホシヤ 此衆の心の念の露れんが爲なり又劍なんがが心  
 をも刺透べし○**アセルの支派**マエルの女ホマンナと云る預言者あり彼ハ甚老邁なり其處女ありしと  
 き夫不適て七年どもに居たりこの老女ハ齡おほより八十四歳に及なりしが殿を離す夜も晝も斷食と祈  
 禱を爲て神事ふ 此時ての老女も側お立て主を讚美しホエルサレムにて贖を望る凡人に此子の事を  
 語り○**主の律法**お遵ひて悉く覺ければガリラヤの邑ナサレに歸たり其子やも成長して精神強  
 健お智慧みか神の恩寵ろの上に臨り○**儲ろの**兩親毎年に遠趣の節筵にエルサレムお往じが彼の十二  
 歳の時また節筵ハ例に循ひエルサレムお上れり節筵の日卒て返往けるお其子イホスエルサレムに留り  
 煥然ルマコトと母之れを知らず 同行人の中に在らんと意ひ一日程を行て親戚知音の者お尋しが遇  
 ざりければ彼を尋てエルサレムお返り三日のち殿おて遇かれ教師の中お坐し且聽かつ問おたり聞  
 者みな其智慧と其應對を奇とせり 兩親之れを見て駭お母かれお曰けるハ子よ何ぞ我儂お如此行たる

路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 一節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 三節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 四節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 五節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 六節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 七節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 八節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 九節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十一節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十二節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十三節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十四節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十五節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十六節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十七節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十八節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 十九節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十一節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十二節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節  
 二十三節 路加傳 第二章 七十九節 至 二百二十三節

父の父と愛て爾を尋たり イエズ答けるは何故われを尋るや我ハ我父の事を務べきを知らず  
然と爾親ハ其語る事を曉す イエズこれと共に下リナザレト歸て彼等お順ひ居リ其憐れらの凡の事を  
心お藏ぬ イエズ智慧も船も爾増リ神と人とお益愛せられたリ

ラベリオカインガル在位の十五年ボツカピトロハニガヤの方伯となりハロゾの分封の  
君と爲リ其兄弟ベリボハイクリア及アラコニテの地の分封は君とありルニアラハレテの分封の君  
と爲リ アソチスとカヤバ祭司の長と爲たりし時ザカリヤの子ヨハ子野お居て神の命令を受ケヨルダ  
の邊なる四方の地お來り罪の赦を得させんが爲に悔改のバツラヌを宣傳たり 預言者イザヤの言を讀  
たる書に野に呼る人の聲あり云く主の道を備ふるの徑を直せよ 諸の谷ハ埋られ諸の山隔り夷られ  
るの直く崎嶇ハ易せられ 人々みな神の救を見えんとを得んども有が如し 茲にバツラヌを受んとて來れ  
る衆人にヨハ子曰けるハ嗚呼毒蛇の裔よ誰が爾曹に來らんとする怒を避べき事を告じや 然ハ爾族に  
る果を結べし爾曹心に我儕が先祖にアラハ有と意とど勿われ爾曹に告ん神ハ能この石をアラハ  
の子と爲しむべし 今や斧を樹の根に置る故に凡て善果を結ざる樹ハ伐れて火に投入らるる也 衆人ヨ  
ハ子に問て曰けるハ然バ我儕何を爲べき乎 答て曰けるハ二の衣服を有る者ハ有ぬ者に分與し食物を有  
る者も亦然すべし 稅東もバツラヌを受んとて來り曰けるハ師よ我儕ハ何を爲べきか 答て曰けるハ  
定例の權銀の知お多く取とど勿れ 兵卒も亦問て曰けるハ我儕ハ何を爲べきか 答て曰けるハ人を強暴し  
或ハ誣訴ることを爲さかれ得とこの給納を以て圧りと爲べし 〇 民懷望し時かれバ衆人みな心ヨハ  
子をキリストとあるや否と愕度たりしに ヨハ子之に答ひひけるハ我ハ水を以てバツラヌを爾曹に施へ

テ三〇六

テ三〇七

テ三〇八

テ三〇九

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

ハ我より能力ある者きたらん我ハ其履帯を解にも足す彼ハ聖靈と火を以てバツラヌを爾曹に施はらん  
手にハ杖を持て其末端を隠め斧ハ鋭て其端にいれ杖ハ滅ざる火にて燒べし ヨハ子食た多端を以て擲を  
なじ福音を民に宣傳たり ざて分封の君なるハロゾの兄弟ベリボの妻ハロゾの事および行ふ所の凡  
の惡事をヨハ子に責られければ 猶も惡事を加へヨハ子を獄に囚たり 民みかババツラヌを受けるに  
ユズも亦バツラヌを受て祈るとき天ひらけ 聖靈の如き狀にて其上に降ぬ又天より聲あり云なち  
ハ我愛子わが喜ぶ所の者あり 〇 時にイエズおほより二十にして福音を宣給ひ八々にヨセフの子と意  
れ給へりヨセフの父ハシリ 其父ハツツマツ其父ハレヒ 其父ハヤンツ其父ハヨセフ 其父  
ハマツラ其父ハアモス其父ハオム 其父ハエスリ 其父ハチムカイ 其父ハマツ其父ハマツラヤ其父  
ハセメイ其父ハヨセフ其父ハエズ 其父ハヨハナ 其父ハレヒ 其父ハセルバ 其父ハシラ 其父ハ  
チリ 其父ハメルキ其父ハアツツ其父ハコサム其父ハエルモ 其父ハエム 其父ハヨセフ其父ハエリ  
セル其父ハヨカレハ其父ハベツマツ其父ハレヒ 其父ハシメカ 其父ハシメカ 其父ハヨセフ其父ハヨナ  
其父ハエリヤキ 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム  
ツツキ其父ハオベツ其父ハボア 其父ハサルモツ其父ハナツツ 其父ハミナ 其父ハミナ 其父ハミナ 其父  
ハエスロツ其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父  
コル 其父ハサルツ其父ハラガツ其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ  
テ其父ハセム其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム  
父ハカイナレ其父ハエノス其父ハセツ其父ハアツツ其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム

テ三〇六

テ三〇七

テ三〇八

テ三〇九

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

ハ我より能力ある者きたらん我ハ其履帯を解にも足す彼ハ聖靈と火を以てバツラヌを爾曹に施はらん  
手にハ杖を持て其末端を隠め斧ハ鋭て其端にいれ杖ハ滅ざる火にて燒べし ヨハ子食た多端を以て擲を  
なじ福音を民に宣傳たり ざて分封の君なるハロゾの兄弟ベリボの妻ハロゾの事および行ふ所の凡  
の惡事をヨハ子に責られければ 猶も惡事を加へヨハ子を獄に囚たり 民みかババツラヌを受けるに  
ユズも亦バツラヌを受て祈るとき天ひらけ 聖靈の如き狀にて其上に降ぬ又天より聲あり云なち  
ハ我愛子わが喜ぶ所の者あり 〇 時にイエズおほより二十にして福音を宣給ひ八々にヨセフの子と意  
れ給へりヨセフの父ハシリ 其父ハツツマツ其父ハレヒ 其父ハヤンツ其父ハヨセフ 其父  
ハマツラ其父ハアモス其父ハオム 其父ハエスリ 其父ハチムカイ 其父ハマツ其父ハマツラヤ其父  
ハセメイ其父ハヨセフ其父ハエズ 其父ハヨハナ 其父ハレヒ 其父ハセルバ 其父ハシラ 其父ハ  
チリ 其父ハメルキ其父ハアツツ其父ハコサム其父ハエルモ 其父ハエム 其父ハヨセフ其父ハエリ  
セル其父ハヨカレハ其父ハベツマツ其父ハレヒ 其父ハシメカ 其父ハシメカ 其父ハヨセフ其父ハヨナ  
其父ハエリヤキ 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム  
ツツキ其父ハオベツ其父ハボア 其父ハサルモツ其父ハナツツ 其父ハミナ 其父ハミナ 其父ハミナ 其父  
ハエスロツ其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父  
コル 其父ハサルツ其父ハラガツ其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ 其父ハバシ  
テ其父ハセム其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム  
父ハカイナレ其父ハエノス其父ハセツ其父ハアツツ其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム 其父ハシム

テ三〇六

テ三〇七

テ三〇八

テ三〇九

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇

テ三一〇